

「中部国際空港における海上アクセス活性化事業」について

資料3

業務実施主体

国土交通省中部運輸局 観光部国際観光課

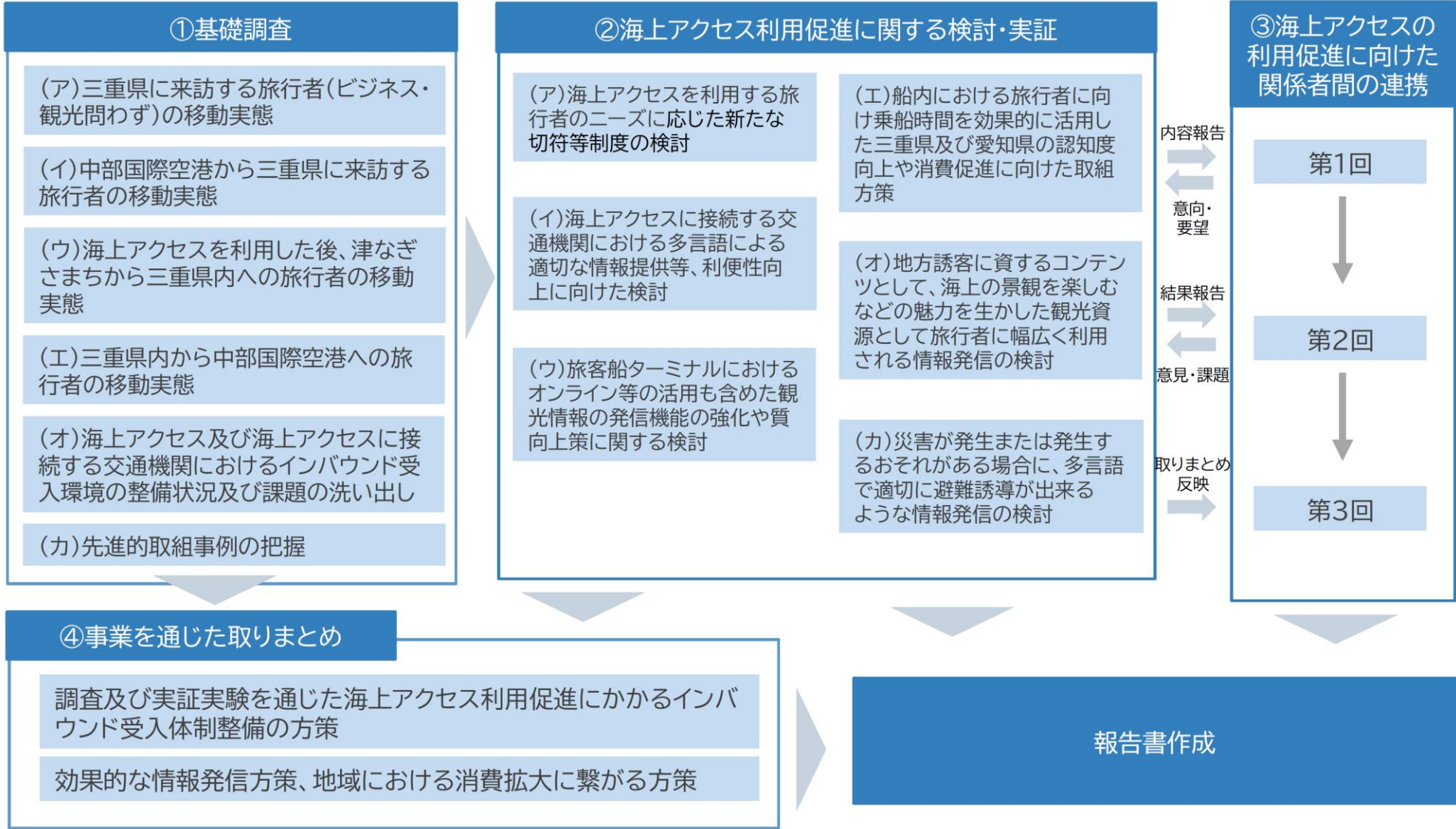
業務期間

令和7年7月17日～令和8年3月19日

業務の目的

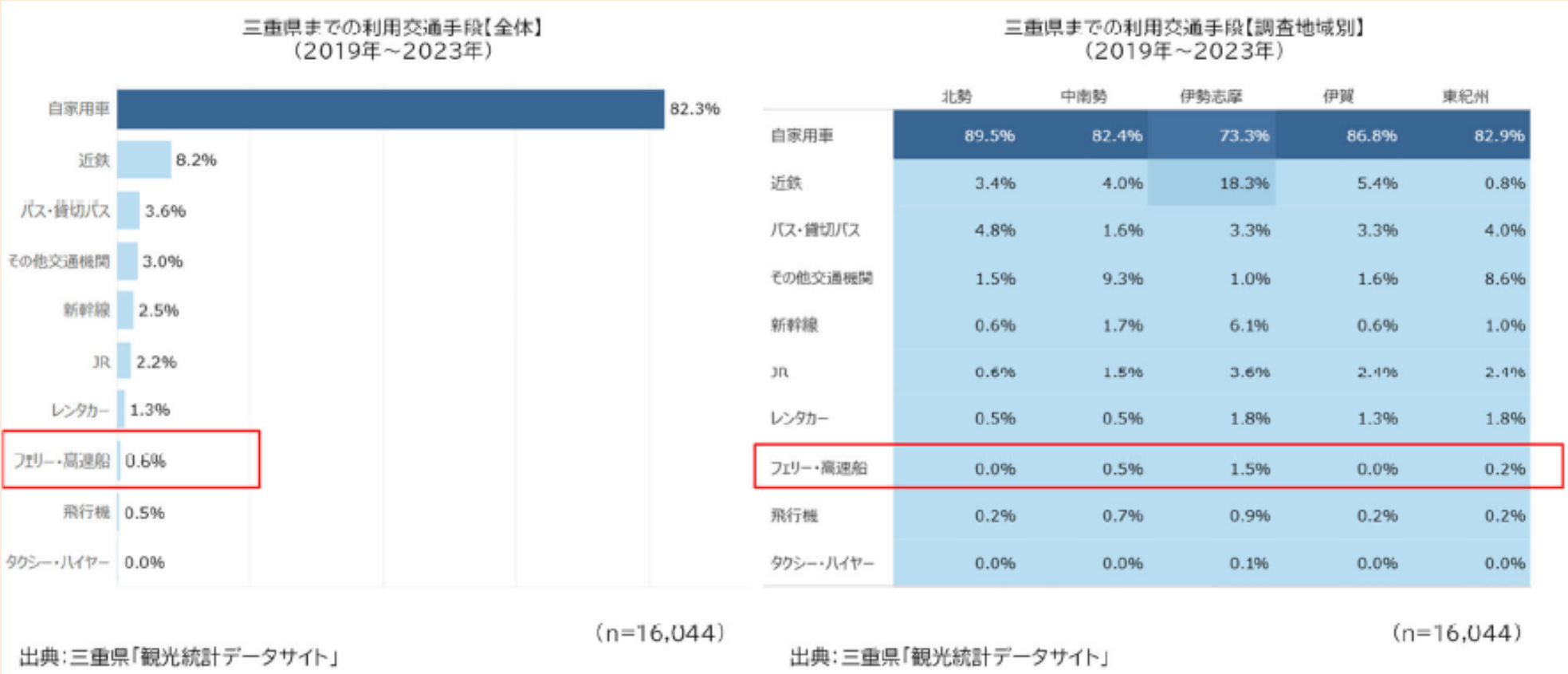
海上アクセスの利用を含む三重県内におけるインバウンドの動向調査等を実施し、そのニーズや課題等を踏まえ、海上アクセス及び接続する交通サービスの確保・充実や多言語対応など受入面の環境整備策を検討し、それに基づき実証することにより港と最寄りの鉄道駅や観光地を結ぶ二次交通の活用や広域周遊に繋げるための認知度向上を図ることを目的として実施。

図表 調査概要



基礎調査

国内旅行者 ②来訪者動向



国土交通省中部運輸局「中部国際空港における海上アクセス活性化事業 報告書（2026年3月）P5から抜粋

三重県までの利用交通手段（2019 年～2023 年調査結果）を見ると、「自家用車」が約8割と圧倒的に多く、「フェリー・高速船」は0.6%に留まる。

基礎調査

プッシュ型アンケート(国内向け)

■回答者属性

居住地は三重県が最多（32.7%）、愛知県（15.7%）、大阪府（9.0%）が続く。その他全国各地からの回答も見られた。

■三重県訪問目的

「三重県での観光」が最多（41.7%）、次いで「自宅への帰宅」（33.7%）、「三重県外の目的地への経由地」（15.3%）。三重県居住者は帰宅目的が80.6%と突出して高く、他県居住者は観光目的が多い。

■移動経路

空港から三重県への移動は「名古屋鉄道・名古屋駅乗り継ぎ」が最多（37.9%）、次いで「自家用車」（31.4%）、「津エアポートライン（高速船）」（12.4%）。三重県居住者は自家用車利用が多く、愛知・大阪居住者は鉄道利用が多い。津エアポートラインは岐阜・三重居住者で利用率が高い。

基礎調査

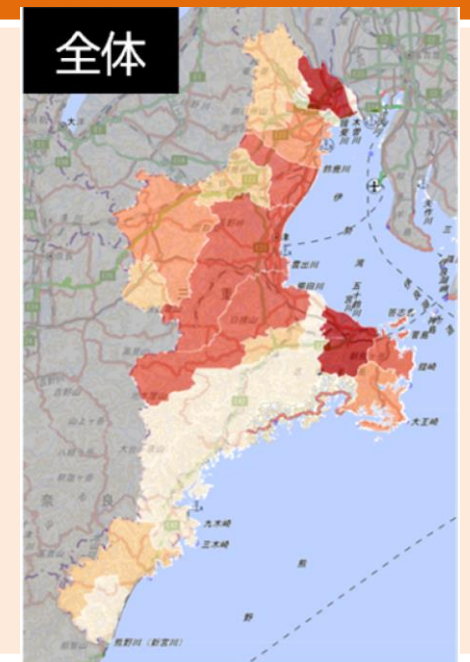
インバウンド ①津エアポートラインの外国人利用者動向(2024年)

外国人旅行者の滞在状況について、位置情報データから分析した結果をみると、中部国際空港から海上アクセスを利用する外国人は限定的である。

インバウンド ②三重県への来訪状況

三重県への来訪者は、伊勢市、鳥羽市のほか、津市、松阪市、鈴鹿市、志摩市、伊賀市などの周辺に来訪している。(2024年)

桑名市、伊勢市への来訪が多く、鈴鹿市、津市、松阪市も比較的多い。(2024年)



基礎調査

プッシュ型アンケート(インバウンド向け)

■回答者属性

居住国は台湾が最多（17.3%）、次いでオーストラリア（15.4%）、韓国（11.5%）

■三重県訪問目的

「観光」が最多で17人、次いで経由地利用やビジネスが少数、観光目的の訪問先は伊勢神宮、伊賀流忍者博物館、伊賀上野城などが挙げられた。

■中部国際空港～三重県間の移動状況

移動経路は名古屋駅での鉄道やバス乗り継ぎが主流。

■津エアポートラインの利用状況と意向

津エアポートラインを利用しなかった理由は「名古屋駅経由の方が早い」「知らなかった」が挙げられた。一方、**利用意向を尋ねたところ、回答者全員が「是非利用してみたい」と回答しており、今後の利用促進の余地が示唆された。**

業務実施に係る関係者間の連携(検討会)

種別	機関名(検討会での役割)
交通事業者・団体	■津エアポートライン (実証事業実施、将来的な新たな事業展開の検討) ■三重県バス協会、三重交通、三重県タクシー協会、トヨタレンタリース三重 ■中部国際空港 (情報発信、利用促進)
国	■中部運輸局 (事業統括、戦略策定総括、各主体調整) ■中部運輸局三重運輸支局 (港からの二次交通の事業展開に関する留意点の確認)
自治体	■三重県、津市、松阪市、愛知県、常滑市 (各地のコンテンツに関する情報提供、体験・見学時の地元調整・各種申請(利用許可・占有許可等))
観光協会・DMO	■中央日本総合観光機構 (広域周遊観光コンテンツ展開支援) ■三重県観光連盟、津市観光協会、愛知県観光協会、とこなめ観光協会、知多半島観光事業協会 (各地のコンテンツに関する情報提供)

検討会での主な意見

- 津エアポートラインの運航開始から時間経過したが、地元の利用はされていると思うが、逆の外部から三重県への来訪者に周知されていない。
 - 旅客構造がコロナ禍以前と変わってきており、今後、伸びしろがあるのは、日本人よりインバウンド。
 - 海上アクセスは、中部国際空港を経由した利用が実態だが、航路を支えるにはボリュームが足りない。空港そのものの利用者拡大に加え、三重と知多地域間の地域間交流の拡大が必要。
 - 海外だけでなく、日本においても、空港アクセスの存在を知らせていく必要がある。
-
- 海上アクセスの利用拡大には、地元での安定利用に加え、企業活動での取り込み、日本人だけでなく、インバウンドへのアプローチが必要であることが確認できた。さらに、空港利用者の拡大、三重-愛知の地域間の交流拡大などの必要性も確認された。
 - これら利用拡大に向けた認知度向上のための情報発信の重要性が指摘された。

船舶の仕様等に関する意見

- 特に夜間については海上風景を十分に楽しむことが難しく、乗船中の時間が単調になる。そこで、夜間の**船内の付加価値向上**のため、プロジェクションマッピングをはじめとした映像演出や光のアートを取り入れ、外の景色に代わるここだけの体験を創り出す。（海上アクセス利用促進に関する検討・実証（P77））
- Wi-Fi やUSB 充電、デラックスシートなど**快適性・付加価値サービスの導入**を検討する。（外国人モニター調査結果概要（P92））
- 津エアポートラインの維持・存続には、物理的な移動基盤を強化するハード対策が重要である。まず、**船舶自体の魅力を高める必要がある**。**快適性や速達性を向上**させることで、観光客や域外からの利用者に選ばれる交通手段としての魅力向上を図る。（事業を通じたとりまとめ（P135））